

沖縄の心を歌った獺

山之口獺建立期成会代表

宮里 栄輝

沖縄の生んだ、日本の代表的な詩人、山之口獺の詩碑が、那覇市与儀公園の一角に建立せられ、本日その除幕式を挙げるに当り、期成会を代表して、ご挨拶を申し上げます。

山之内獺の詩碑建立にあたりましては、期成会員を始め、県内外の有志の方々、それに各学校の職員生徒など、きわめて多くの人々が積極的にご協力ご支援くださいましたおかげで、獺の13年忌を期して、詩碑を建立すること出来ましたことを心から感謝申し上げます。

山之内獺は、その一生をかけて、沖縄の心を歌い上げた唯一の詩人でした。

詩は数行から数十行の短章であります。獺はこの形式を通じて、真実の追求と、抵抗と批判の精神を貫いています。

これは島津の長い苛斂誅求、明治政府の植民地的搾取と差別、アメリカの軍事占領と人権無視等の歴史の中に培われた沖縄人の心を表現したものだと思えます。

沖縄の社会と生活の周辺から取材された数々の詩は、今後一般にひろく読まれ、自分の心を書きとめて呉れたという共感を得るであらう。

この詩碑の建立を機縁に、獺の詩が沖縄の若い世代によみつがれ、郷土の文化の解明と発展に寄興することを念願致します。

最後に詩碑の建立につき、与儀公園の一部使用を許可して下さった那覇市当局に深甚なる謝意を表明して詩碑除幕式のごあいさつの言葉を終わります。

1975年7月23日

注1 養秀同窓会編集 「養秀」 第1号 昭和50年 夏 より抜粋しました。

注2 山之内獺詩碑は与儀公園内 那覇市民会館近くに建立されています。

注3 平成23年9月15日公園内で山之口獺の詩碑のプレート設置式がありました。詩碑に書かれた詩は 題名「座蒲團」です。

座蒲團

山之口 貌

土の上には床がある
床の上には畳がある
畳の上にあるのが座蒲團で
その上にあるのが樂といふ
樂の上には
なんにもないのであろうか
どうぞおしきなさい
とすすめられて
樂に座ったさびしさよ
土の世界をはるかに
みおろしてねるやうに
住み馴れぬ世界が
さびしいよ